

学校名 秋田コア ビジネスカレッジ		設置認可年月日 昭和61年9月26日		校長名 小野 巧		〒 010-0001 (住所) 秋田県秋田市中通五丁目4番12号 (電話) 018-832-8303		所在地																																								
設置者名		設立認可年月日		代表者名		〒 010-0065 (住所) 秋田県秋田市茨島一丁目4番80号 (電話) 018-865-0188				所在地																																						
分野		認定課程名		認定学科名				専門士		高度専門士																																						
商業実務		専門課程		ホスピタリティマネジメント科ホテル・ブライダルコー ス				平成7年文部科学大臣告示 第7号		-																																						
学科の目的		ホテルやブライダル業界の基礎知識・技術を持ち、実務においてホスピタリティを発揮できる人材育成を目的とする。																																														
認定年月日		平成27年2月17日																																														
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義		演習		実習		実験		実技																																				
2 年		昼間	2100	890		610		600		0		0																																				
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内		専任教員数		兼任教員数		総教員数																																						
60人の内数		30人		0人		3人の内数		9人の内数		12人の内数																																						
学期制度		■前期:4月5日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:																																								
長期休み		■学年始:4月1日 ■夏 季:7月24日～8月18日 ■冬 季:12月25日～1月12日 ■学年末:3月31日				卒業・進級 条件		卒業要件:																																								
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話・メール連絡、保護者連携、個人面談、三者面談を実施 し、早期対応を図る				課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 ボランティア活動、学校祭、スポーツ大会、 卒業研究発表会 ■サークル活動: 有																																								
就職等の 状況※2		■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) 株式会社グランベルホテル、株式会社森ビルホスピタリティ コーポレーション、株式会社秋田キャッスルホテル、ケーヨーリゾー ト開発合同会社、株式会社バルニバービ 等 ホテルブライ ダル業界 ■就職指導内容 自己分析、業界研究、書類作成支援、面接対策 ■卒業者数 11 人 ■就職希望者数 11 人 ■就職者数 11 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 4 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td>厚生労働省 レスト ランサービス技能検 定</td><td>②</td><td>11人</td><td>3人</td></tr><tr><td>ブライダルコーディ ネート3級</td><td>②</td><td>11人</td><td>9人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する か記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 レストランサービスコンペティション等各種大会を学校独自に 開催					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	厚生労働省 レスト ランサービス技能検 定	②	11人	3人	ブライダルコーディ ネート3級	②	11人	9人																								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																													
厚生労働省 レスト ランサービス技能検 定	②	11人	3人																																													
ブライダルコーディ ネート3級	②	11人	9人																																													
中途退学 の現状		■中途退学者 2 名 ■中退率 11 % 令和4年4月1日時点において、在学者19名 (令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者17名 (令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の原因理由 進路変更、学校生活への不適合 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制による出席管理、入学時のオリエンテーションや個人面談による学習目標設定、定期的な個人面談、資格取得支援を通じた学習意欲 の向上、保護者連携																																														
経済的支援 制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 コア奨学金制度、在校生特待制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																														
第三者による		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載																																														

学校評価	評価団体：－	受審年月：－	評価結果を掲載した ホームページURL
当該学科の ホームページ URL	https://core-akita.ac.jp/abc/course/hotel_bridal/hotel_bridal_course/		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・企業等における現在のニーズ、雇用の状況変化に速やかに対応する。
- ・最新の業界の動向を掴み、実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術等の教授を可能とする。
- ・学生自らがキャリア選択・キャリア形成を主体的に行っていくためのスキルを身に付けさせる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会等は、学科ごとに組織され、委員会で提言されたことを、カリキュラム検討委員会で諮り、教育課程の編成に活かす。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月11日現在

名 前	所 属	任期	種別
森 欣秀	ANAクラウンプラザホテル秋田	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
橋本 浩	ホテルメトロポリタン秋田	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
星 章夫	秋田キャッスルホテル	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
大石 賢太郎	グローヴエンターテインメント株式会社	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
森本 誠治	株式会社イヤタカ	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
生駒 伸	秋田コア ビジネスカレッジ ホスピタリティマネジメント科 主任	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
櫻庭 萌恵	秋田コア ビジネスカレッジ ホスピタリティマネジメント科 教員	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—
菊池 仁	秋田コア ビジネスカレッジ ホスピタリティマネジメント科 教員	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年6月15日 16:20～17:05

第2回 令和4年10月26日 16:15～17:05

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

コロナ禍における人材不足今後も予想されるため、ホテル業界を担う世代への魅力発信や仕事内容についての理解を促し、人材確保に繋げる必要がある。学校独自のコンペティションを行い、連携企業の若手社員も参加することによって学生には実際に現場で働く方々の姿から将来を想像しキャリア形成に繋げていきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践において学ぶことによる ① 学習意欲の向上 ② 専門知識・技能の充実・深化 ③ 高い職業意識の醸成
④ 責任感・自立心の形成 を目的とする。また、講義等で得た知識を確認するとともに実社会におけるルールを肌で感じ、組織の中で生きる上で必要な態度やスキル（職業観・勤労観の育成）を身に付ける。さらに今後の学習方針を自ら確かめ、進路適性の確認と職業選択の機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- 1 担当者による事前打ち合わせ（実施時期・内容・成果物・評価等を決定）
- 2 連携企業より素材の提供および必要に応じて学生への説明、現場見学等の実施
- 3 制作実施（本校教員による指導）
- 4 プレゼンテーション、連携企業による評価
- 5 グループによる振り返り

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ホスピタリティ実習	秋田市内のホテルや首都圏のホテルブライダル施設見学で視野を広げ、11月から8週間、見学した施設や一流リゾートホテルでの職場体験を通し、業界を知り就職に向けた心構えを取得する。 成果をプレゼンテーションする。	ホテルメトロポリタン秋田、秋田キャッスルホテル、シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル、ホテルニッコーアリビラ等
ブライダル実技	ブライダルに必要な挙式や披露宴の体験やドレスコーディネートを学ぶことでより即戦力なり得るスキルを獲得する	ANAクラウンプラザホテル秋田、センティール・ラ・セゾン千秋公園

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

- ・実務に関する知識・技術・技能の向上と指導力の向上を目指した研修を実施する。
- ・階層別研修等による組織的な人材育成の取り組みを支援し、教員の学ぶ意欲や向上心を喚起し、自己啓発意欲を高める。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	フォトウエディングを体験しよう	連携企業等:	株式会社岩田写真
期間:	令和4年5月～7月14日	対象:	学生
内容	撮影基礎知識とフォトウエディングの現状について		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
研修名:	「秋田に移住して感じる事」	連携企業等:	飯牟礼 克年氏
期間:	令和4年7月14日～7月14日	対象:	学生
内容	鹿児島出身の後援者が秋田に移住した経緯や秋田の再発見啓蒙		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	～SDGsと食品ロス削減への取り組み～	連携企業等:	ホテルメトロポリタン秋田
期間:	令和4年8月31日～8月31日	対象:	教員・学生
内容	食べ残しを減らす「3010運動」の実践、食材を活用する「もったいないメニュー」の開発、食べ残しの持ち帰り「mottECO(モッテコ)」導入するなど、食品ロス削減の推進や食にまつわる社会課題の解決への取組		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	キヤノンシステムアンドサポートIT Solution Forum 2023 (ITSF)	連携企業等:	キヤノンシステムアンドサポート株式会社
期間:	令和5年7月7～21日	対象:	教員
内容	スキルアップオンラインセミナー		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	全国コア学園グループ教員研修会	連携企業等:	株式会社コア
期間:	令和5年8月8～9日	対象:	教職員
内容	資格取得や基礎学力向上に向けた各校の取組		
研修名:	教職員研修(スクールカウンセラーからの講話)	連携企業等:	
期間:	令和5年5月26日	対象:	教職員
内容	学生のメンタル対応について 木村久仁子(臨床心理士)		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- どのような学校であり、どのような状況であるのかなど学校全体の状況を把握できるようにする。
- ・教育目標や教育活動の計画、状況、実績について必要な情報を提供し説明する
 - ・学校の活動の状況やその成果・実績を広く社会一般にアピールする
 - ・学校の問題点を共有し、改善に向けた取組みについての承認を得る
 - ・学校運営の状況等に関する情報を公表し、公的な認可を受けた教育機関として、説明責任を果たす
 - ・本校の活動等に対する関係業界、所轄庁、地域住民、高等学校、学生、保護者等の理解を深める

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
(2)学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか
(3)教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている
(4)学修成果	・就職率の向上が図られているか
(5)学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか
(8)財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・学校関係者評価委員会において、委員より情報公開に関する資料について、見やすさや分かりやすさといった表現についての意見を受け、自己評価報告書の書式を見直し、評価項目に対する取り組みや課題等コメント欄の一覧性を高めるなど、報告書の改訂を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
松嶋 秀成	一般社団法人 秋田県情報産業協会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	業界団体
吉川 裕太	吉川税理士事務所	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
浅野 雅彦	秋田商工会議所	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	業界団体
石田 雄哉	秋田市立秋田商業高等学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	有識者
畠山 昭広	一般社団法人 秋田県医師会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	業界団体
橋本 浩	ホテルメトロポリタン秋田	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://core-akita.ac.jp/abc/public/>

公表時期: 令和5年7月31日

公表時期: 令和5年7月31日

授業科目等の概要

(専門課程ホスピタリティマネジメント科ホテル・ブライダルコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所			教員	企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任		
1	○			キャリア開発Ⅰ	自らのキャリアを主体的にとらえ、組織で働くために必要なコミュニケーションを意識し、就職活動において評価される能力を伸ばす。	1通	60	4	○			○	○	○		
2	○			キャリア開発Ⅱ	筆記試験対策の演習、模擬グループディスカッションの演習、模擬集団面接の演習を行い、就職試験ならびに就職後に必要とされる、常識やビジネスセンスを身につける。	2通	40	2	○			○		○	○	
3	○			文書処理演習Ⅰ	タッチタイピングを習得し、社内文書など状況に応じた文書作成を学習する。	1通	60	2	○			○			○	
4	○			表計算処理演習Ⅰ	Excelの基本操作をマスターし、実務で活用できる力を身につける。	1通	50	1	○			○			○	
5	○			文書処理演習Ⅱ	タッチタイピングを習得し、社内文書など状況に応じた文書作成を学習する。	2前	50	1	○			○			○	
6	○			表計算処理演習Ⅱ	画像の取り込み、Word・Excelグラフの利用した文書作成。	2通	50	1	○			○			○	
7	○			プレゼンテーション演習	PowerPointの操作を習得する。また、効果的なプレゼンテーションができるよう学習する。	1前	30	1	○			○			○	
8	○			硬筆書写演習	ペン習字の上達と硬筆書写検定3級合格を目標とし、科目前半はペン習字の書き込みを中心に、後半は試験対策としての理論の授業が中心となる。	1通	30	1	○			○			○	
9	○			ホスピタリティ総論	抽象的に語られがちなホスピタリティ「見える化」し、理解を深める	1通	30	2	○			○				
10	○			ホスピタリティ実習	目標館のホテルやブライダル施設見学で視野を広げ、11月から7週間の、見学した施設や一流リゾートホテルでの職場体験を通し、業界を知り就職に向けた心構えを取得する。	1通	##	20			○	○	○		○	
11	○			フロントオフィス・サービスⅠ	宿泊部門の商品、業務内容を学ぶと共にレセプション、インフォメーション、キャッツシャー、客室予約、ドアマン、ベルマン、ベットメイク等の役割を流れに沿って学習する。	1前	30	2	○			○		○		
12	○			ブライダル総論	ブライダルの歴史・しきたり・挙式・披露宴の形式・ブライダルサービス・業務の役割分担を学びます。実際ホテルにて挙式の演習を行う。	1通	60	4	○			○		○	○	
13	○			ブライダル実技	ブライダルに関わるいろいろな業務・ドレスやジュエリー・メイク・プランナー業務の流れ・披露宴の流れ等について知り理解するために実習を行う。	2通	##	4	○			○	○	○	○	
14	○			ブライダルコーディネーター	ブライダルを担当する者が心得ておくべき、基礎的な用語や実務知識の習得。試験にはブライダルに関する雑学等広く広い知識が求められる。	2後	30	2	○			○				
15	○			ドレスコーディネーター	ドレスコーディネーターの仕事を理解するとともに婚にに関わる全般を理解し検定試験合格を目指す。	2通	40	2	○			○		○		
16	○			レストラン・宴会実務	ホテルの料飲部門の即戦力となる為の、知識とスキルを身につける。料飲部門の基礎知識やレストラン実務概論、宴会実務概論、中国料理も学習する。	1通	50	3	○			○				
17	○			サービス実技Ⅰ	料飲サービスの基本となる、トレイの扱い方からシルバー、皿、グラスの持ち方、さらにセッティング、サービス技法を身につける。	1通	50	1	○			○		○		
18	○			サービス実技Ⅱ	料飲サービスにおけるセッティング、サービス技法を身につけ、キーとなるホテリエの役割や仕事内容を理解する。	2通	50	1	○			○			○	
19	○			飲料実務	料飲部門の基礎実務を中心に、バー、ラウンジの商品、業務内容を学習・什器備品の名称や使い方、取り扱いの注意や管理の仕方等について学習。	2通	50	3	○			##	##	##	○	
20	○			西洋料理料飲サービス技法	料飲一般、レストランサービス、食品・安全衛生等の座学。朝食、ランチのサービス実技も加わる。厚生労働大臣認定、レストランサービス技能士資格を目指す。	2前	40	2	○			○		○		
21	○			基礎英語Ⅰ	サービススタッフとして必要な基礎英語を身につけ、実践的会話能力を高めると共にTOEIC 450点以上を目指す。	1通	60	4	○			○			○	
22	○			基礎英語Ⅱ	ホテルスタッフとして必要な専門的な英語を身につけ、ゲストへの対応やサポートをできるような能力を高めることを目指す。中国語会話中国語の正しい発音を身につけ、中国語に親しむための基礎知識の習得。	2通	##	8	○			○			○	
23	○			TOEIC®	教室の内外で積極的に語彙を練習し、同時に発音スキルを向上を図る	1通	40	2	○			○		○		
24	○			中国語	発音の基礎を学び、簡単な会話で中国語を使ってみる	2通	20	1	○			○			○	
25	○			マナー・プロトコール	日本、西洋のマナーの歴史、国際人のプロトコールや席次、社会人に必要な常識を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
26	○			セールスマネジメント論	営業パーソンが共通してもっている「売れる要素」理論的な背景から考え理解する。	2通	40	2	○			○				
27	○			色彩基礎	色の表示方法、光と色の見え、色の持つ心理的・視覚効果、色彩調和などについて学習する。	2前	40	2	○			○		○		

28	○		卒業制作	授業で得た知識や技術を基に、模擬披露宴を一から組み立てゲストを招いて実行する。卒業研究発表会で成果を発表する。	2 通	##	3	○		○	○	○	○
合計					28	科目	1990 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：		1 学期の授業期間	22 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。